社会保険労務士からの三方一両得だより

令和７年１月２０日　第１８４号

結城に行ってきました

妻との会話の中で、「結城紬は絹なのか木綿なのか」で議論になり、ネットで調べると絹のようなのですが、今一つ実感が湧かなかったので確認に行ってきました。

訪れたのは「つむぎの館」。以前は結城紬の製造卸問屋だった建物を改装した資料館で、内部も庭も徹底的に清掃されていて感心しました。絹糸に撚り（より）をかけて織り糸を作ってから機械で織っているために、あのザラザラとした感触になっているとのこと。現地を訪れたかいがあり、良く理解できました。

機織り体験もできます。

結城といえば鎌倉時代の結城朝光（ともみつ）、結城秀康（徳川家康の次男）が有名ですが、その結城氏の本拠地であっただけに城下町として整備されたようで、立派な古い建物がたくさんありました。特につむぎの館周辺には、国登録有形文化財の建物がたくさんあり、情緒があります。

休日に行ったのですが、つむぎの館には他に誰もおらず、周辺の景観の良いエリアでも観光客っぽい人は見かけませんでした。私も今回訪れるまでは結城のことは全く知りませんでした。確かにお城などの目玉はありませんが、もうちょっと PR に力を入れた方がよいのではないかと思います。せっかくの歴史ある建物が勿体ないですね。

交番もそれ風になっています。

我が家の畑

ホウレンソウとカブは、なかなか大きくなりません。防寒する方法もあるのですが、じっくりと育てていきます。

季節は真冬ですが、春に向けての準備はスタートしています。ビニールで保温した棚の中で、レタスの種まきをしました。この季節の種まきは初めての挑戦です。ネットで研究しました。

畑では人参の種まきをしました。こちらは黒マルチ、二重の不織布、ビニールトンネルと、ガチガチの保温を施しました。

寒さに耐えるホウレンソウ

有給休暇の取得率上昇と管理職や経営者の思い込み

厚生労働省から令和6年「就労条件総合調査」の結果が公表されました。

令和5年の1年間に企業が付与した年次有給休暇（繰越日数を除く）の取得率は65.3%（同 62.1%）となり、昭和 59 年以降最も高くなっています。10 年ほど前には 40%台後半でしたので、実に 20 パーセントポイントほども急上昇していることになります。

こうした流れの中で、管理職や経営者の中には「最近の若い者は休みばかり取っている」と感じる向きがあるかもしれません。これはもしかすると偏った思い込みによるものかもしれません。単に職場に物理的に存在することを重視する傾向や、長時間労働を美徳とする考え方が強く、実際の生産性や成果よりも職場にいることを偏重する誤った労働観のせいかもしれません。

昔ながらの考え方に凝り固まるのは問題がありますが、一方で、その場にいないとコミュニケーションが不足したり報連相がスムーズにいかなくなるのも事実でしょう。新しい連絡ツールなどがいろいろと登場しているとはいえ、その場にいること、リアルな対面での情報交換の重要性が消えてなくなることはありません。

何事もバランスの問題です。バランスの取れた判断をするためには職場のリーダーや管理者の意識が重要となります。「会社の売上が減っているのに休みばかり取って……」と不満を抱えて憂鬱になるより、売上減の要因を探って対策を考えるほうが建設的でしょう。時代に適合しない企業は生き残れません リーダーの考え方にアップデートの余地がないか、ちょっと立ち止まって考えてみることも必要です。

私が経営者の方に必ず申し上げるのは、「有給休暇は完全に消化されることを前提として休日日数や給与などを決めてください」ということです。完全消化されても不満を感じない待遇で雇用することが、管理職や経営者に不満を生じさせない必須事項です。もちろんその前提の上でより良い条件となるように努力することも重要ですが。

アグリ労務管理事務所　発行責任者　山川　荘二（代表 特定社会保険労務士）
〒321-0923　栃木県宇都宮市下栗町 2916-9　エイムビル 304
TEL 028-616-8814　　FAX 050-3488-2729
E-mail　yamakawa@sr-aguri.com　URL　http://sr-aguri.com